

吉田初三郎の鳥瞰図に関する研究

—北海道旭川市と層雲峡に関連する作品を中心に

代表研究者 田中 祐未
北海道博物館 研究部歴史研究グループ 学芸員（美術史担当）

研究要旨

吉田初三郎（1884-1955）は、大正から昭和にかけて活躍した美術家であり、全国各地から注文を受けて、数多くの鳥瞰図を制作したことで知られている。初三郎は、発展する都市や名所のすがたを描き、その多くは観光パンフレットなどの印刷物に収録されて世に広まった。時代を映し出す初三郎の鳥瞰図は、近年ますます注目されている。

本研究では、1）初三郎を研究する際、肉筆画と刊行図を区別する必要があることを示す
2）刊行図を年代別に比較する際には、初三郎の意図以外の影響も検討する必要があることを示すことを目的に、初三郎作品を分析する視点として、「肉筆画／刊行図の比較」と、「同一地域を対象とした異なる年代の刊行図の比較」の有効性と必要性の検証を試みる。対象地域には、初三郎が「北海道最初の都市鳥瞰図」を手がけた地、北海道旭川市及び層雲峡（旭川市近郊の温泉郷）を含む作品を選んだ。

本研究期間内に、堺市博物館、旭川市役所、旭川市博物館がそれぞれ所蔵する、旭川市を主題とする鳥瞰図の肉筆画について、現地調査を行うとともに、高精細画像を取得した。これら3点の肉筆画は、それぞれ別の時期に制作された作品と考えられる。

前述の肉筆画調査と並行しながら、観光案内『旭川』（印刷折本、旭川商工会議所発行、1930年）に収録された鳥瞰図について、同時期の新聞や機関誌と照らし合わせながら、描写内容について考察を加えた。詳細は今年度末に報告予定である。

本研究期間内の調査によって得られた基礎資料は、当初の想定よりも豊富なものとなった。今後は、これらの調査をもとに、成果を公開していく予定である。
